

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 葉山町立葉山中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日 : 平成30年9月27日 (木)
- ク ラ ス : 2年A組 (36名)
- オリンピアン : 松本 弥生 先生 (水泳・競泳)



■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、オリンピックバリュー(「エクセレンス=卓越、ベストを尽くす、全力で頑張る」、「フレンドシップ=友情、仲間を思いやる」、「リスペクト=尊敬、尊重、フェアプレー精神、仲間を大切にして認め合う」)の意味を説明。
- ・ストレッチを行った後に、ライン移動ゲームを全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを全2回(各90秒間)実施。制限時間内に連続して跳べた数を競う。
- ・各回終了後、回数と各チームで考えた作戦を発表。「精神を統一し、落ち着いて、集中して跳ぶようにした」「声を出し合うようにした」等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・冒頭で説明したオリンピックバリューについて、運動の授業の中で意識できたかを生徒たちに確認。
- ・主運動では仲間を励ましたり、引っ掛かってしまった仲間を責めることなく、「次は頑張ろう」と盛り上げたりする姿が多く見受けられたと伝える。
- ・座学の時間はより具体的にオリンピックバリューについて学んでいくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・古代オリンピックの歴史やオリンピックシンボルに込められた意味等を紹介。
- ・松本先生の競技生活を振り返りながら、オリンピックバリュー（エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意/尊重」）を説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：このクラスをより良くするために何ができるか、オリンピックバリューを踏まえて考えてみよう。
- 発表：合唱コンクール等のイベントでベストを尽くす、クラス全体が一丸となる(エクセレンス)、アドバイスし合いお互いに高め合う、各係の思いに対して皆で応える(フレンドシップ)、仲間に感謝する、お互いの個性を認め合う(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・来月に迫った合唱コンクールに向けて、クラス一丸となって頑張ってもらいたい。オリンピックバリューは特別なイベントの時だけでなく、日常生活の様々な場面で感じることができるので、オリンピックバリューを思い出して実行してほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日 : 平成30年9月27日 (木)
- ク ラ ス : 2年B組 (36名)、2年C組 (35名)
- オリンピアン : 坪井 保菜美 先生 (体操・新体操)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、オリンピックバリュー (「エクセレンス=全力で、諦めずに頑張ること」、「フレンドシップ=仲間と協力し、理解し合い、助け合うこと」、「リスペクト=家族・先生や仲間への感謝の気持ちを忘れず、思いやりを持つこと」) について説明。
- ・柔軟体操等を行った後、ボール取りゲームを全4回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを全3回(各90秒間)実施。
- ・各回終了後、回数と各チームで考えた作戦を発表。「最初の人と最後の人が気をつけて跳ぶようにした」、「経験者が回し手を担当した」、「縄を短くした」等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・記録を伸ばすために必要なことを皆で考え、意見を出し合ながら立てた作戦を理解した上で、お互いへの思いやりを持って臨んでいたと伝える。
- ・失敗も成功も経験することが大事である。座学の時間は、運動の時間で行った内容が冒頭で紹介したオリンピックバリューにどう繋がっていくか考えようと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルの意味やクーベルタンを紹介した後、坪井先生が競技を通じて感じたオリンピックバリュー（エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意/尊重」）を説明。

3. グループワーク



発問：合唱コンクールに向けて、目標を達成するために、今何をすべきか、何が必要かを考えてみよう。

発表：目標に近づくためにできることを考えられるようになるまで頑張る、他のクラスより1分でも多く練習する(エクセレンス)、体育祭で学んだ団結力を活かす、心をつとにする(フレンドシップ)、リーダーとフォロワーの関係を築き仲間を大切に、人の話を聞き団結力を深めていく(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・グループワークで話し合ったことを忘れずに、1か月後の合唱コンクールに臨んでほしいと伝え、誰でもできないことがあるのは当たり前であり、もう一度挑戦してみようというチャレンジ精神を常に持つことで、自分の得意なことが見つかる可能性がある、中途半端に諦めず、前向きに挑戦していくことが大切だと伝える。
 ・自国開催となるオリンピックでは多くの応援がアスリートの力になる。東京2020大会では皆も全力を尽くして盛り上げてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日 : 平成30年9月28日 (金)
- ク ラ ス : 2年D組 (35名)、2年E組 (36名)
- オリンピアン : 田中 和仁 先生 (体操)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・簡単な自己紹介の後、運動と座学の2時間を通して田中先生が経験してきたことを伝えるので、オリンピックについて学ぼうと授業の目的を確認。
- ・クラス全員で体育館を雑巾掛けした後、柔軟体操とじゃんけん勝ち抜けを実施。

3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて馬跳び競争を全2回(70秒間)実施。個人で跳んだ回数を数え、チーム全員の合計回数で順位を競う。
- ・1回目終了後の作戦タイムでは、「馬と馬の間隔を広くした」「転ばないよう、足をしっかりと広げて跳んだ」等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・座学の時間では、運動の時間を振り返りつつ、オリンピックについてより詳しく学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・運動の時間で経験したことや田中先生が経験したことを通じてオリンピックやオリンピックバリューについて学ぼうと授業の目的を確認。
- ・田中先生にとってのオリンピックバリュー（エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」「あきらめない」フレンドシップ：「友情」「仲間」「チームワーク」「思いやり」リスペクト：「敬意/尊重」「感謝」「フェアプレー」）について説明。

3. グループワーク



- 発問：合唱コンクールに向けて、目標を達成するために何が出来るか。意識して取り組みたいことを考えてみよう。
- 発表：失敗しても諦めない、皆で声を出す、決めた目標を達成するまで諦めない(エクセレンス)、良いところ褒める、コミュニケーションを図る、仲間を信じる、協力する(フレンドシップ)、感謝する、お互いのパートを尊重する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・大切なことは夢を持つことで、諦めない心を持って必ず夢は叶う。それぞれの夢に向かってこれからも頑張ってもらいたいと伝える。
- ・オリンピック教室を通して、オリンピックバリューについて学んできたが、オリンピックバリューはスポーツだけに限らず、様々なことにつながっている。今日学んだ3つのバリューをこれからも大切にしてほしいと伝え、授業終了。